

農村の生き物たち

全国に定着している外来種で、河川や湖沼、池、水路、水田などの様々な水域で見られます¹⁾。大きなハサミが特徴で、子ども達には人気があります。ですが、生態系や農業に悪影響を及ぼしています²⁾。

2023年6月1日より規制が始まり、野外に放したり逃がしたりすることなどが禁止されます³⁾。家庭でペットとして飼育している個体は今まで通り飼うことができますので³⁾、寿命を迎えるまで大切に飼育しましょう。

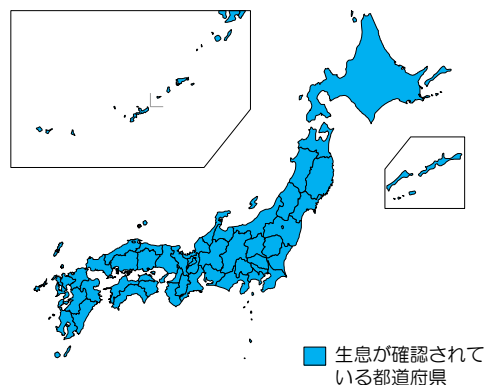
節足動物門 甲殻綱 十脚目 アメリカザリガニ科

アメリカザリガニ *Procambarus clarkii*

ほかの呼び名：ザリガニ、アメザリ、エビガニなど



生息分布（外来）



■ 生息が確認されている都道府県

特徴

- 全長は10cmほどに達し、最大で15cm¹⁾。
- 成体は赤～赤褐色¹⁾。幼い個体は赤くなく、ハサミが小さいため、別の種だと誤解されることがあります。
- 河川や湖沼、池、水路、水田など、様々な水域に生息します¹⁾。
- 雑食性で、落ち葉、藻類、水草、水生昆虫、魚類など、様々な動植物を捕食します¹⁾。
- 抱卵するメスは1年中みられます¹⁾。1回の産卵で200～1000個を抱卵します¹⁾。



3cmほどの個体



抱卵の様子

生態系における位置付け

- 在来種の捕食や水草の切断などの直接的な影響や、生態系全体への影響、在来種への病気の媒介が報告されています²⁾。



人との関わり

- ウシガエル（食用蛙）養殖用の餌として持ち込まれたものが野生化しました¹⁾。
- 水田の畦畔に巣穴を掘ることにより、漏水被害が報告されています²⁾。
- 教育目的やペットとして飼育されています⁴⁾。
- 食材としても利用されています⁴⁾。

似ている種

- 在来のニホンザリガニは、北海道と東北地方北部に生息します¹⁾。
- 外来のウチダザリガニ（タンカイザリガニ含む）は、北海道、福島県、栃木県、群馬県、千葉県、新潟県、長野県、滋賀県に定着しています¹⁾。



ニホンザリガニ（剥製）



ウチダザリガニ（剥製）

「条件付特定外来生物」に指定されます³⁾

- 2023年6月1日より、野外に放したり逃がしたりすることなどが禁止されます。
- 家庭でペットとして飼育している個体は、今まで通り飼うことができます。寿命を迎えるまで大切に飼育しましょう。

参考 1) 環境省HP https://www.env.go.jp/nature/amezari_info.html 2) 環境省HP https://www.env.go.jp/nature/amezari_mondai.html 3) 環境省HP <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html> 4) 環境省HP https://www.env.go.jp/nature/amezari_ryuutsuu.html

（施設工学研究領域 施設保全グループ 渡部 恵司）

「農村工学研究部門メールマガジン」第154号(2023年5月号)